

Work Better

# WB

Design. Insights. Research.

Fall | Winter 2022

世界のデザインと提携  
デザイン家具ブランドがスチールケースブランド  
コミュニティとして結集

デザインで役員スペースを変える  
ハイブリッドワーク時代をリードするハイブリッド型  
役員スペース

新着 + 注目アイテム  
感性を触発するデザイン

## The Design Issue

デザインでオフィス変革に挑む

表紙画像  
スチールケースブランドコミュニティのブランドのひとつ、Moooi(モーイ)による絶滅動物の動物園。生物多  
様性とサステナブルデザインを通して持続可能な未来を守るというMoooiのコミットメントを表しています。

日本スチールケース株式会社  
東京都港区南麻布5-2-32興和広尾ビル4F TEL:03-3448-9611 FAX:03-3448-9617  
steelcase.jp

22-0000704 © 2022 Steelcase Inc. All rights reserved. 許可なく記載記事の複製、転用、  
写真の無断転載は禁じられています。ここに記載されているトレードマークはSteelcase Inc.または  
関係各社の商標登録です。

Steelcase

**Steelcase Community of Brands**  
スチールケースブランドコミュニティ

スチールケースは、提携ブランドと共にデザイン、テクノロジー、素材、学習、健康を主軸とした広範囲にわたるプロダクトとサービスで「より豊かに働く」環境づくりに取り組みます。

発行者 &  
エグゼクティブエディター  
GALE MOUTREY

編集長  
Chris Congdon

マネジングディレクター  
Stav Kontis

クリエイティブディレクター  
Erin Ellison

アートディレクション  
& デザイン  
Emily Cowdrey  
Rationale

編集アシスタント  
Jacob Van Singel

海外担当:  
アメリカ  
Brad Doan  
Laura Feinauer  
Carey Potter  
Lindsey VanDenBoom

ヨーロッパ、中近東 & アフリカ  
Anna Ault  
Rocio Díez  
Alicia Ries  
Deena Sami

アジアパシフィック  
Samantha Giam  
Cherry Wan

寄稿ライター  
Rebecca Charbauskii  
Jill DeVries-Dryer  
Jeremy Frechette  
Brandon Lacic  
Lisa Light  
Krista Markell  
Brian Miller  
Anna Parini  
Jonny Ruzzo  
Jody Williams

デジタルメディア  
Arelí Arellano  
Jordan Marks  
Anne-Sophie Peter

**Steelcase**  
LEARNING

**Smith System**

**DESIGNTEX**

**coalesse**

**orangebox**

**AMQ**

**viccarbe**

**zoom**

**Steelcase**

**Microsoft**

**Bolia.com**

**TAIGA**  
CONCEPT

**m.a.d.**

**logitech**

**Polyvision**

**grado**

**segis**

**W**  
WENDELBO

**HALCON**

**Commune**

# Inside This Issue

目次



## Leadership by Design

デザインで役員スペースを変える

6

ハイブリッドワーク時代のカギを握る役員スペースの変革が今、始まろうとしている。



## A World of Design

世界のデザインと提携

18

デザイン家具ブランドがスチールケースブランドコミュニティとして結集

## Designing With, Not For

誰もが参加するオフィスデザイン

30

インクルーシブオフィス実現に向けての重要ポイントは平等ではなく「公平性」

## Shape Shifters

視点を変える

46

家具のカタチやレイアウト構成、ツールの配置などハイブリッドコラボレーションに向けての新提案でスチールケースと提携テック企業が協業



## Conversations

インタビュー

28

スチールケースグローバルデザイン担当副社長、マイケル・ヘルドが語るデザインとは。

## Of Interest

最新情報

2

## People + Planet

人 + 環境保全

4

## New + Notable

新着 + 注目アイテム

31

## Inspiration

発想がカタチに

48

## デザインでオフィス変革に挑む

### オフィス不要論 vs オフィス再生論

テレワークの普及によって一部のメディアでささやかれるオフィス不要論。それに対して私たちはオフィス再生論を提言しています。キャッスル・システムズ(Kastle Systems)の出退勤データによると、確かに出勤人数はコロナ禍前に比べると下回っているものの、それはただ単に社員証のスワイプの頻度集計であって実際の出社人数や社員がオフィスでどう感じながら仕事をしているかを示しているわけではありません。出勤人数の減少理由は必ずしもハイブリッドワークではなく、コロナ禍前から噴出していたオフィスへの不満とも大いに関係しています。既存の常識や価値観が激しく変化する昨今、世界中の多くの企業が新しい働き方を理解し、その進化の行方を見極めようとしています。これからのオフィスの在り方や役割とは何か。それには何が必要か。その先にあるのは決してオフィス不要論ではなく、オフィスの再考と再生であると私たちは信じています。そして、その変革の時代にあって注目されるのが「デザイン」のパワーです。

デザイナーとは、デザインを通して社会的問題を解決し、仮説に果敢に挑戦しながら価値ある新たな体験を生み出す人たちです。

今、多くの企業がどこでどう働くのがベストなのかを模索する中、私たちが提案するのは、未来へと進化し続ける働き方を見据えたより流動的かつ高性能な「場」の創造です。その取り組みには、働き方や働く「場」に関する世界的動向、最新オフィスデザインやプロダクト、調査・研究から導かれた知見等の情報共有が不可欠です。そこでこの度、その情報発信ツールとして企業情報誌Work Better (ワーク・ベター)マガジンを発行することになりました。本創刊号では、デザインのパワーで社会的問題に果敢に挑戦するスチールケースとそのパートナーブランド、また、世界中の才能溢れるデザイナーたちのプロダクトと貴重なメッセージを通してオフィスの未来を探っています。



**Chris Congdon** | クリス・コンドン  
エディター、Work Betterマガジン

*Chris Congdon*

## New Spaces for New Work

新・働き方のための  
新・スペース

ハイブリッドワーク新時代に向けて、スチールケースのライブオフィス、Steelcase WorkLife Center (ワークライフセンター)が装い新たにリニューアル。パリとメルボルンに続き、ドバイ、ミュンヘン、ニューヨーク、トロント、ロサンゼルス、ワシントンD.C.、ボストン、ダラス、アトランタ、サンフランシスコ、シカゴ、グランドラピッズなど世界中のスペースが続々と刷新。是非お近くのライブオフィスで新コンセプトをご体感ください。



グランドラピッズ



トロント



トロントラピッズ

### WorkBetterLabsを北米で展開

北米を皮切りに世界中の主要都市でオープン予定の期間限定「WorkBetterLabs(ワークベター・ラボ)」。そこにあるのはスチールケースが描く未来のオフィスの姿です。



パリ



ドバイ

## Latest Hybrid Work Research

ハイブリッドワークに関する  
最新研究データ

リアルとリモート両参加者にとって公平かつ魅力あるウェブ会議を実現するには、照明、映像、音響とスペースの融合は不可欠です。マイクロソフトのTeamsのコンテンツレイアウト、Front Rowエクスペリエンス専用に設計されたテーブル、Ocular™(オキュラー)は、カーブ状にすることで誰もが室内の全員の顔や声を認識でき、リモート参加者とも同じ目線で会話ができるようになります。



### ハイブリッドオフィス に向けて浮上する 新たなニーズ

**仕事効率を上げる**  
自宅や他の場所で働くよりも仕事効率が高まるように質の高いテクノロジーやツール、魅力あるスペースを提供する。

**目的を持って交流する**  
社内の孤立化を防ぎ、仕事へのモチベーションを上げるように同僚同士が密に交流できるスペースを設置する。

**コミュニティを形成する**  
仕事のやりがいや価値の共有を促すようなボランティア活動、アイデアを持ち寄りて成果を競い合うハッカソン等のイベントを企画する。

調査に関する詳細は：  
[steelcase.com/NewHybridNeeds](https://steelcase.com/NewHybridNeeds)



スチールケースグローバルレポート：  
ハイブリッドワーク新時代  
詳細はこちら

71% ハイブリッドワークを  
推進する経営層

#1 ハイブリッドコラボレーション  
スペースは必要不可欠\*

56% すべての会議は  
ハイブリッドになる\*

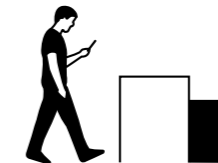
\* 出典元: スチールケースグローバル調査、2021-2022年

### ハイブリッドで登場した3つのワーカータイプ

1  
出社型  
出社が必要  
自席・固定席



2  
ノマド型  
個人やチームの  
共有スペース  
フリーアドレス席



3  
目的型  
選択の出社  
チーム/プロジェクト  
専有スペースを使用



スチールケース  
ブランド  
コミュニティ

H A L C O N

HALCON (ハルコン) は、熟練の職人技で妥協のない機能美が光る木製家具ブランド。

W

WENDELBO

Wendelbo(ヴァネルボ)は、長い歴史の中で培われた北欧デザインとソファなどの布張り家具の伝統的な職人技を継承するデンマークの家具ブランド。1955年にデンマークのオーフスで創業。

segis

Segis(セジス)は、1983年、イタリアのポッジボンシで誕生。その文化的起源はルネッサンス時代に遡り、ハンドメイド装飾品のデザインで脚光を浴び、造形美と機能美を兼ね備えたチェアで一躍世界の有名ブランドのひとつに。

世界グリーンビルディング協会によると、建築物は気候変動に非常に大きな影響を与えており、世界全体の温室効果ガス排出量の37%を占めていることが分かっています。建物に組み込まれるオフィス家具を製造するメーカーとして、脱炭素社会に向けた取り組みは当社の責務です。

より良い社会を目指して—— Better is Possible.

## Designing for the Planet

地球の未来を守るためのデザイン

「リサイクル材の使用、リサイクル可能率やリユースを念頭ににした設計デザイン、廃棄物の最小化など、製品デザイナーが実践できる選択肢は数多くあります。私たちが注力していることのひとつは製品の軽量化。つまり、いかに少ない資源で製品をつくるかを常に考えています。」

Michael Held | マイケル・ヘルド  
スチールケースグローバルデザイン  
担当副社長



### プラスチック廃棄物を利用

Steelcase Flex Perch(フレックス・パーチ)スツールは、化石燃料を使用せずにプラスチック廃棄物由来の原料を使用。

70% ポストコンシューマーリサイクル材  
100% リサイクル可能

製造工程で発生する規格外スツールは  
廃棄をせずに慈善団体に寄贈。

### 初の材料ラベル認証を取得

Think(シンク)は宣言ラベル環境認証を取得した初のスチールケースプロダクト。食品の栄養成分表示のようにチェア構成材料を記す健康と環境の透明性を目指す。



### カーボンスマートな選択

CarbonNeutral®(カーボン・ニュートラル)認証取得のSteelcase Series 1(シリーズ・ワン)チェア。森林管理や再エネ導入、電気輸送等を通じて排出量を100%オフセット。

### 伸縮性が無駄をなくす

Flex Personal Spaces Privacy Wrap(フレックス・パーソナルスペース・プライベート・ラップ)は、再生ポリを使用したCamira Knit(カミラ・ニット)を採用。その伸縮性を活かして無駄を省いている。

### 再生マットレスで価値ある日常を

Savina(サヴィーナ)ラウンジでは、廃棄されるマットレスやソファをリサイクルした環境にやさしい高機能素材、Ecopure®(エコピュア)を使用。



## A Force for Good

善を促進する社会貢献活動



### オーストラリア 癒しと尊重、そして、平等

オーストラリア先住民との和解に関する4つの行動計画(RAP)を支援。RAPとは雇用機会、専門的パートナーシップ、文化交流を通じて、アボリジニとトレス海峡島民を支援する枠組み。

### インド + ドイツ

### 工場に太陽光発電を設置

インド、ブネに493枚、ドイツのローゼンハイムに76枚の太陽光パネルの設置と熱と電気両方を生成する技術を導入。

# 50%

自社製造施設の電力消費に占める割合



### アメリカ

### 女性の能力が活かされる雇用主

米フォーブス誌が選ぶアメリカで女性にとって最も良い雇用主として選出された400社の中の13位にランクイン。育児休暇や家族サポート、柔軟性、包括的な雇用慣行、キャリアや賃金の公平性といった項目が高く評価される。

当社の女性役員・管理職に占める割合:

# 1/3

最高幹部職に占める女性の割合

### ヨーロッパ

### ウクライナ難民への支援

ルーマニアでのシェルター支援、野外炊事場や国境を超えたウクライナ人のための仮設住宅の資金集めや必需品調達などさまざまな支援活動を開始。

### フランス

### 循環型モノづくりの確立

フランス、ベルギー、スイス、ルクセンブルグでEco'Services(エコサービス)プログラムを展開。製品の再販、寄付、アップサイクルやリサイクルを通じて、廃棄物の削減を実践。使用済み製品を廃棄せずに新品同様の状態に戻し、製品寿命を伸ばす循環型モノづくり、Circular by Steelcaseの一貫。



### インド

### ウーマン・オブ・スチール

インドでは製造に携わる女性労働力の割合はわずか12%。当社のインド、ブネの製造工場では、「ウーマン・オブ・スチール」と呼ばれる教育プログラムによってその割合は2021年初頭の10%から60%に増加した。

# 64%

取締役会に占める女性の割合

2022 Steelcase Impact Report



2022年度版Steelcaseインパクトレポート(英語)を発売  
持続可能性実現に向けての野心的な排出削減目標とその進捗状況、包含性と誠実さを育む企業文化の醸成のための当社の道筋をご覧ください。

より良い  
未来社会を  
実現する

個人と企業からなる新たなコミュニティを形成し、公平性や教育、環境への大胆なアプローチで社会変革をもたらすために、パートナー企業と協働しながら新たなアイデアへの投資を加速させています。

# Leadership

# by Design

デザインで役員スペースを変える

ハイブリッドワーク時代の幕開けとともに、その鍵を握るリーダーシップスタイルと役員スペースの変革が始まろうとしています。

テレワークとオフィスワークを組み合わせるハイブリッドワークが定着しつつある昨今、多くの企業の経営陣の頭を悩ませているもの、それは選択肢が広がる柔軟な勤務形態を推進しつつ、共同体としてのコミュニティ意識を維持しながらいかに組織の結束力を高めるかという難題です。

今、Tik Tokをきっかけに「Quiet Quitting(静かな退職)」という考え方が広がっています。仕事への熱意がなく、必要最低限以上のことはしないという風潮が組織文化の希薄化を招いている現状に対して、経営トップが自らの振る舞いを通して社員を奮い立たせようという動きがあります。

社員のオフィス復帰とハイブリッドワークが本格的に導入され始めると従来のオフィスがいかに機能しないかを実感できます。ハイブリッドワーク導入を成功させるには、そのプロセスで経営陣自らが行動様式のロールモデルとなって組織を率いていく責任を担うことが極めて重要になります。従来の常識を壊し、部下が近づきやすい、話しやすい、親しみやすいといった新たなリーダー像でハイブリッドワーク導入の方向性を自ら指し示すということです。「オープンで親しみやすいといった企業リーダー像こそが変革の鍵を握っているといえます。かつて、それは社内のジムやカフェテリア、ペットを職場に同伴できるといった特典でした。」と語るのはマッキンゼーのワークプレイス戦略 & 変革リーダー、フィル・カーシュナー氏です。

一方、組織のヒエラルキーをもとに設計された従来のオフィスでは、空間そのものが障壁となっています。経営陣が席を置く役員フロアはあくまでも役員のニーズに重点を置いて設計され、他とは一線を画しています。社員との偶発的な出会いも困難で、このことが組織の柔軟性や透明性を阻む一因にもなっています。変革への第一歩は発想を変えて従来とは根本的に異なるアプローチで役員スペースを設計することです。環境を変えることで意識が変わり、行動様式や組織文化が改善され、「スペース」が有効な戦略ツールとして機能し始めます。

## ハイブリッドワークを機能させる

ハイブリッド型役員スペースでも、最新デバイスを駆使しながらリアルとリモート両方でのスムーズかつ快適につながる環境整備は必要不可欠です。その中核となるのがオープンと個室、1対1とグループでの対話のための多種多様なハイブリッドコラボレーションスペースの設置です。

当社は、最上のハイブリッドワーク体験を実現するために、業界をリードする世界的テック企業と開発段階から協業し、「スペース」と「テクノロジー」が完全に融合する統合型ソリューションの創造を目指しています。



詳細はこちら  
[steelcase.com/technologies](https://steelcase.com/technologies)



## 高性能かつ社員との距離を縮めるスペース

社員が求めるリーダー像とは、オープンで親しみやすいこと、そして、経営の透明性が当社の実態意識調査からも明らかになっています。それには経営陣や管理職の意識・行動改革が欠かせませんが、それは時に効率的な組織運営の障害になる場合もあります。

「これからのリーダー像に求められるのは親しみやすさ。」  
Phil Kirschner | フィル・カーシュナー  
ワークプレイス戦略&変革リーダー、マッキンゼー

経営層と社員の距離を縮める親しみやすいスペースと組織が直面する日々の難題や危機を乗り切るための高性能なスペース、その両方のバランスを図ること。また、経営チーム内はもちろん、組織内の意思疎通を迅速かつスムーズにすること。これらはいずれもリアルとリモート両方のコミュニケーションが混在するハイブリッドワーク環境において、企業が直面している喫緊の課題です。スチールケースのCEOであるサラ・アームブルスターはこう述べています。

「激変する時代に経営層の意識や行動を改革するには、物理的スペースが果たす役割は極めて大きいと私たちは考えます。当社は経営層が常に率先して新たな働き方を実践しながら社内浸透させてきた歴史を持ちます。その実験場となる役員スペースは、当社の長年の研究と知見をベースにハイブリッド型役員スペースへの革新的な方向性を提示するものです。」

米ミシガン州グランドラピッズに構えるスチールケース・ラーニング&イノベーションセンター内にある新スペース、「リーダー・コモンズ (Leader Commons)」。

新たな行動様式を促すためのプロトタイプとして、そのコンセプトは日々テスト、評価、改善されています。経営陣の日々のハードなニーズを満たす高度な性能を備え、リアルとリモート両方でのスムーズなコラボレーションを実現しながら、経営陣と社員をつなぐさまざまな仕掛けが散りばめられています。グローバルデザインディレクターのシェリー・ジョンソンはこう主張します。「従来の役員スペースは、今日社員が望む組織の透明性や社員との距離を近づける環境ではありませんでした。」

ダイナミックに変容し、かつ魅力溢れる都市の近隣地区の設計から着想を得たハイブリッド型スペース。それは「公平性」と「自発的貢献」、「使いやすさ」を主軸にした多種多様な個人/共有スペースで構成されています。

# Designing a Leadership Neighborhood

リーダーシップ  
ネイバーフッドを構築する

当社が提案するのは「ネイバーフッド」という新たな設計コンセプト。私たちが居住する活気に溢れた都市の近隣地区(ネイバーフッド)のようにオフィスを設計するというものです。「ネイバーフッド」は、個人や組織の成長や繁栄のために共同体としてのコミュニティ意識や一体感を構築すると同時に、組織の価値観を伝え、組織文化を醸成する戦略ツールとして機能します。「ネイバーフッド」設計にあたって、当社は次の4つの設計基準を設定しています。但し、その表現の独自性や個性は企業毎に異なります。



## 個 + チーム

都市の近隣地区に住宅地と公共施設が調和しながら混在するように、個人とチーム両方の働き方をバランスよくサポートする。



## 固定から流動へ

高度なニーズや将来の変化にも迅速に適応できるように、自らレイアウトを容易に変更、再構成できることでスペースを最大限に有効活用する。



## オープン + プライバシー

周囲の雑音から離れた1人での集中時間は不可欠。そのために必要な時に即座にプライバシーを確保できる。



## ネット + リアル

ビデオ通話やウェブ会議はオフィスの新スタンダードに。リアルとリモート両方での公平かつ快適につながる環境を整備する。



## リーダーシップ ネイバーフッドのレイアウト

ハイブリッド型役員スペースには、その多様かつ複雑なニーズを満たすための多様な多彩かつ魅力溢れる個人・共有スペースが計画的に配置されています。

- 1 **ホームベース**  
1対1のコラボレーションスペースと隣接した集中ワークのためのパーソナルスペース。
- 2 **アシスタントポッド**  
経営陣を日々サポートするスタッフ席を近くに設置。可動式家具で配置変更も容易である。
- 3 **ソーシャルハブ**  
「リーダー・コモンズ」の入口に位置し、人が自然に集い、経営陣とのカジュアルな交流を促すスペース。会議前のウェイトングスポットとしても機能する。
- 4 **コートヤード**  
中心に位置し、サイズ違いの遮音・吸音タイプのキャスター付き間仕切りを設置。スペースを自在に区切った対話やコラボレーションが容易で、可動式家具を動かしながら人をつないでいく。
- 5 **フロントポーチ**  
主要動線の近くに位置するカジュアルスペース。ミーティングの合間や前後のメールチェックなどのタッチダウンスポットとして、また、雑談や来客のおもてなしスポットとしても利用できる。
- 6 **コミュニティミーティングスペース**  
ハドルーム、アクティブコラボレーションスペース、情報共有型コラボレーションルームなどの予約可能な会議室やミーティングスペース。全社員が利用可能でハイブリッドコラボレーションを強力にサポートする。
- 7 **コミュニケーションキオスク**  
アナログとデジタル両ツールをスペース全体に組み込み、社員や来客に向けての情報掲示板で社内外への情報発信を強化する(左図には含まれない)。

### 経営陣の見える化

経営陣と社員の偶発的な出会いを促すことを目的に「リーダーシップ・ネイバーフッド」は主要な動線上に配置されている。



### 1 経営陣のための「ホーム」

「リーダー・コモンズ」に分散して配置された経営陣のホームベース、10のC-スイート。近接しているため幹部同士のコミュニケーションも容易である。完備されたアメニティやツールは同じでありながらプライバシー環境はそれぞれのワークスタイルや好みによって異なる。

Illustration by Jody Williams

# A New Vision for Leadership Spaces to Support Hybrid Work

ハイブリッド型役員スペースの  
新たなカタチ



## バックポーチ

ポッド脇のデッドスペースをリアルとリモート両方のコラボレーションができるスポットとして利用。上下昇降デスクを設置し、姿勢の変化を促している。



## プライベートゾーン

テクノロジーと仕事ツールが完備されたコンパクトなスペース。周囲の雑音から離れた1人での集中ワークやビデオ通話にも便利である。

## C-スイートホームベース

C-スイート(CEOなどの経営トップ層)スペースは主要動線に面し、プライバシーを確保しながら誰もが気軽に立ち寄れる「場」として再設計されました。集中ワークやビデオ通話の際はポッドの引き戸を閉めるだけ。チェア背後の壁をビデオ通話の個性豊かなバーチャル背景として利用したり、自立型ポッドの周囲には多種多様な補完的スポットを設置するなど、さまざまな工夫を凝らしています。



製品・ブランド名:  
Campers & Dens by Orangebox  
Mackinac Desk System by Steelcase  
Steelcase Karman™ Chair

C-スイートホームベース パーソナルゾーン

よりオープンな環境を好む経営陣のためのスペース。  
間仕切りを活用してプライバシーを確保しながらスペースを  
自分仕様にカスタマイズできます。



バックボーチ

ソファ等で居心地が良くリラックスした空間を演出。  
PC作業や同僚との簡単なミーティングスポットと  
して利用できる。

製品・ブランド名：  
Steelcase Flex Personal Spaces with Privacy Wrap  
Steelcase Flex Active Frames  
Gesture™ Chair by Steelcase  
Grace Sofa by Bolia





#### ソーシャルハブ

会議の前後を活用して社員との対話を促す多目的のカフェスペース。メールチェックや簡単なPC作業などのタッチダウンスポットとしても幅広く利用できます。



製品・ブランド名：  
Grid Sofa by Established & Sons  
Marien152 Guest Chair by Coalesse  
West Elm Work Greenpoint Bookshelves and Credenza  
Wing Chair by Carl Hansen & Son



# Behind the Scenes

オフィスリニューアルの舞台裏

スチールケースのデザインチームは、経営チームとコンサル担当のアブライドリサーチ&コンサルティング(ARC)チームに協力を仰ぎながら、今日のリーダーに不可欠な行動規範とは、組織文化再活性化のために何が必要なのか議論を重ねてきました。ARCチームは、アンケート調査やインタビュー、ワークショップを通して、経営層が抱える課題やハイブリッドワークで浮上した新たなニーズを徹底的に洗い出し、真に機能するスペースのあるべき姿を描き、具現化しました。

1対1インタビューなどの調査プロセスを通して、各幹部のリーダーシップスタイル(1人/他者と共同で働く頻度等)などを特定した結果、最終的に設計チームが導き出したのが「リーダー・commons」というスペース。結果として社員とのコミュニケーションとプライバシーの必要頻度のバランスを図りながらさまざまなスタイルの「場」が生まれました。

グローバルデザインディレクターのシェリー・ジョンソンは、次のように述べています。「すべての個人用スペースは、仕事のパフォーマンス向上とプライバシー確保の両面から設計されました。完備されたデバイスやツールはほぼどれも同じでありながら、異なるのは個性の表現とプライバシー確保の方法でした。個性を尊重すること、そして、リアルとリモート両方でのスムーズなコミュニケーションを構築することが重要なポイントでした。」

スチールケース設計チーム(左から右へ): グローバルクリエイティブデザイン担当、ジョン・ローゼ、インテリアデザイン担当、サラ・アームプスター、シニアインダストリアルデザイナー、カイ・ユウ、グローバルデザインディレクター、シェリー・ジョンソン



## リモートリーダースペース

ゆとりある住空間をオフィスに。1人での集中ワークのためのワークテントや自立型遮音ポッド、カジュアルなミーティングのための「フロントポーチ」など、周囲には心地良さを満喫できるバリエーション豊かなスペースが配置されています。

製品・ブランド名:  
Steelcase Pod Tent  
Steelcase Karman™ Chair  
On the QT by Orangebox  
Steelcase Flex Active Frames  
Hana Chair by Moooi  
Poof Pouf by Moooi

# A World of Design

## 世界のデザインと提携

独創的な世界観を生み出すスチールケースブランドコミュニティの卓越したデザイン家具がオフィスシーンを彩ります。

スチールケースは、これからの多様かつ自由な働き方に応えるために、多角的視点とクリエイティブなモノづくりで一線を画す家具ブランドと調達、開発、販売などのシナジー創出で提携しています。これらのブランドで構成される当社の戦略的「ブランドコミュニティ」構築は、世界的に注目されるプロダクトデザイナーが生み出す造形美だけでなく、性能や機能、手頃な価格帯といった幅広い選択肢をお客様に届けることが目的です。デザインと機能両面から、美しく心地よい空間こそが「働く」をより豊かにするという信条を掲げ、明確な設計意図、信頼性の高さ、そして、高品質という3原則を共有し、創造力や感性を刺激する「場」の創造に向けて共に取り組んでいきます。

提携ブランドの詳細は下記まで。  
[steelcase.com/asia-ja/brands/](https://steelcase.com/asia-ja/brands/)

# W

WENDELBO

ヴァネルボ

長い歴史の中で培われた北欧デザインとその伝統的な職人技を継承するデンマークの家具ブランド。クラシックでありながら革新的なデザインを常に追求しつつ、ハンドクラフトの独特な趣きや柔らかなフォルムの心地よさを兼ね備えた家具を生み続けています。



自由に組み合わせてあらゆるスペースにフィットするPanorama(パノラマ)ソファ。モジュール式なので将来の用途やニーズが変わってもその組み合わせを自在に調整できます。



**Jonas Wagell**

ヨナス・ワゲル  
Panorama担当デザイナー

「主張しすぎないシンプルモダンとタイムレスなタッチのモジュール式ソファは、オフィスにも自宅にも溶け込みます。」



# Bolia.com

ボリア



**Kateryna Sokolova**  
 カテリーナ・ソコロワ  
 デザイナー  
 Bolia Ukraineとのコラボ

「私の母国でもあるウクライナの変化し続ける姿、それが私のデザインキャリアに大きな影響を与えています。多文化共生社会ではその文化や独自性の違いを認め、リスペクトする重要性を感じています。世界の卓越した工業デザインには、シンプルさ、機能性、情熱の3つの要素が備わっているように思います。」

母なる大自然に見られる色や素材を生かしながら、伝統的な北欧デザインに斬新さを取り入れ、時代を超越して長く愛される家具を生み出し続けています。



# coalesse

コアレス

人と人がシームレスにつながり、快適に創造、集中できる空間、そのすべてが美しく機能するモダンオフィスのための家具づくりを目指しています。



**Micheal Young**  
 マイケル・ヤング  
 デザイナー  
 Coalesse Hong Kongとのコラボ

「デザイナーの仕事とは、製品の言語やアイデアを具現化すること。私にとってのデザインとはカタチやフォルムを進化させることであり、素材のパワーで暮らしを変えることです。」

# DESIGNTEX

デザインテックス

造形美と実用性、フォルムとパフォーマンスの絶妙なバランスを図りながらリサーチベースでユーザー体験を高める空間創出を目指すアメリカのテキスタイルブランドです。

「これからのオフィス向けプロダクトには、多彩な機能を提供するだけでなく、造形や素材で感性を触発することが求められます。つまり、目的が明確に見える製品づくりです。」



**Susan Lyons**  
 スーザン・ライオンズ  
 代表取締役社長  
 Designtex  
 アメリカ



# orangebox

オレンジボックス

障壁を取り除き、人をつなぐワークスペース。ワークスタイルの進化に応えるSmartworking™ (スマートワーキング)ソリューションは、どこで働くかをチョイスできるオフィス環境に応えます。

「オフィスでフーンブースが人気スポットな理由は、プライバシーが必要な時に即座にブースに駆け込める利便性です。階段や通路など場所を探すための無駄な時間もなくなります。」



**Mark Partridge**  
マーク・パトリッジ  
デザイナー  
Orangebox  
イギリス



「Cubb(カブ)シリーズの最初のチェア&テーブルコレクションの成功は、その個性光るデザインでした。そして、今、その個性は多彩なチームテーブルコレクションへと拡大しています。」

「当社のベストセラープロダクト、Sling (スリング) コレクションは、シンプルモダン、快適さ、機能性、そのすべてを備えています。」

m.a.d.家具デザイナー



エム・エー・ディー

香港に拠点を構え、あらゆるシーンに溶け込む温かみと無機質さを兼ね備えたシンプルモダンと手頃な価格帯が定評です。



grado グラド

若手起業家の想いをのせて数人の若者が立ち上げた新ブランド。オフィスと住まいの両方のニーズを兼ね備えた家具づくりで急成長を遂げています。

自然界に生息する竹の節の構造から着想を得た布張りソファ。そのカタチの規則性を洗練された方法でモジュール式ユニットソファとして表現し、スペースのサイズやワークスタイルに合わせてその組み合わせを自在に変更できます。

# Mediterranean Collaboration

OVERVIEW



**viccarbe**

# Mediterranean Collaboration

地中海式コラボレーションスタイル

VICTOR CARRASCO BERLANGA | ヴィクター・カラスコ・バーランガ

VICCARBE | ヴィッカルベ創業者

まるでホテルや住空間のように、スペースを区切る境界線がなくなる未来のオフィス。そこは心地よさやプライバシー、交流といった「働く」ための必須要素を満たすスペースの集合体へと進化していきます。これからのオフィス設計において、独自性や個性を際立たせるという演出が大切な役割を担います。

ヴィッカルベが創業したのはスペインの地中海都市、パレンシア。ローマ、西ゴート、イスラムなど何世紀にもわたる異なる文明支配とともに発展してきた歴史を持ちます。ファーストファッションなどトレンドの移り変わりが激しい現代にあって、その土壌で培われた文化的多様性が企業DNAとして継承され、ユニークかつ自由な視点や思考がヴィッカルベの独特な地中海式コラボレーションスタイルを築いています。

また、年間300日以上の日照時間を誇る温暖な気候や世界で最も健康で長寿な地域を支える地中海式食事、楽観的

かつ時を超越したライフスタイルもコレクションのデザインに大きく寄与しています。そのものづくりの基軸にあるのは、市場の声に絶えず耳を傾け、人を分断するのではなく結束させるモノや方法を探求しつづけること、そして、常にユーザーの視点に立ってプロダクトを設計・開発するという姿勢です。

これからのデジタル化が進む社会では、「人間らしさ」がこれまで以上に価値を持ちます。私たちのデザインの原点は、大自然の中にあるシンプルさと調和。その中から生み出されるアイコン的プロダクトは、人間の感性を刺激する仕掛けとして偶発的な会話を誘発します。

プロダクトに触れる中で生まれる楽しさやひらめき。自然と交わされる対話や創造力の活性化がより密なコラボレーションを実現し、今までにない斬新なアイデアやソリューションを生み出すきっかけにもなります。

## COMMON コモン

Designed by Naoto Fukasawa | 深澤直人



Scan for more







## COPA コパ

Designed by Ramos&Bassols | ラモス&バソルズ

コパの最大の魅力は究極の快適さ。広めのシートとソフトなフォルムはオフィスだけでなく、住空間やホテル等にもしっかりと馴染みます。熟練したカット技術が光る最高級クリスタルグラスにインスパイアされたエレガントなシルエットはシートと一体化し、長時間座っても疲れを感じさせません。アームチェアとスツールのラインナップにソフトと標準タイプの2種類の形状、複数のベースや仕上げを用意しています。



詳細はこちら



## ALETA アレタ

Designed by Jaime Hayon | ハイメ・アジョン

ヴィッカルベ創業者のヴィクター・カラスコとデザイナー、ハイメ・アジョンの飛行機内での必然的な出会い。その数年後の2017年、アーティストでもあるハイメの生み出す独特な丸みのある風合いと温もりあるヴィッカルベの地中海スタイルが融合し、ALETAコレクションが誕生しました。その後、同ブランドを代表するアイコンのベストセラープロダクトに成長し、パリのボンビドゥーセンター、シカゴのマクドナルドグローバル本社、香港のグタール旗艦店、パリのディオールオフィスなど、世界中の名だたるブランドのシーンを彩っています。



詳細はこちら



## CAMBIO カンビオ

Designed by Victor Carrasco | ヴィクター・カラスコ

古代ギリシャの哲学者ヘラクレイトスの「万物は流転する」という名言のように、ベストな関係性や秀逸なデザインには摩擦がなく自然にカタチが変化します。カンビオコレクションは、四角と丸という異なる形状をいかにシンプルに流れるようにつなぐかを徹底的に追求し、そのミニマルモダンが「働く」、「食事をする」、「くつろぐ」といったテーブルを囲んでの無限の可能性を引き出します。



詳細はこちら



## MAARTEN &amp; MAARTEN PLASTIC マーテン&amp;マーテンプラスチック

Designed by Victor Carrasco | ヴィクター・カラスコ

マーテン&マーテンプラスチックコレクションは、心地よく、かつ耐久性にも優れたスタイリッシュな家具コレクション。エレガントな表情のテキスタイルが特長のマーテンとオフィスユーズを念頭にした快適さと頑丈さを兼ね備えたマーテンプラスチックのコンビが魅力です。軽量で持ち運びが容易、10脚までのスタッキング収納など、その根底にあるのは可動性とスペース効率で「管理をいかに楽にするか」という発想です。



詳細はこちら



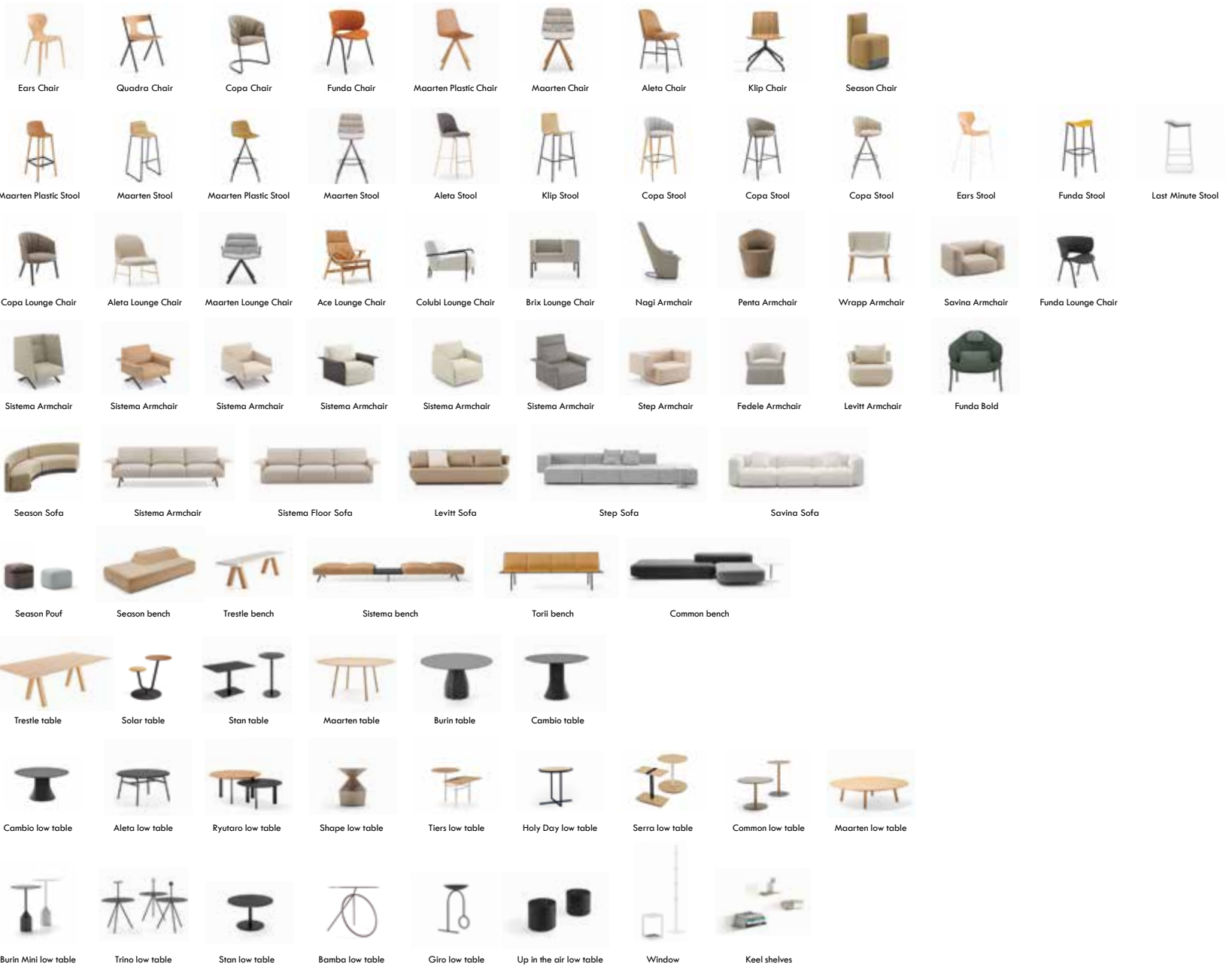
2012



OVERVIEW



7



**viccarbe**

# Commune

コミュニケーション

「アートな日常」をコンセプトに美しいフォルムとクラフトマンシップを融合させた造形美に重点を置いたデザインが特長的です。

時代のトレンド、コロンアルスタイル、ウッディな温もりや味わい深い質感など、住まいのくつろぎ空間をあらゆるシーンにもたらしめます。



**フランク・ロイド・ライト財団**  
フランク・ロイド・ライトの設計思想を継承する財団。より豊かな暮らしの実現に向けてさまざまな活動に取り組み、スチールケースと同財団は新たな創造型コラボレーションの提案で協業しています。詳しくは[steelcase.com/FLWCollection](http://steelcase.com/FLWCollection)まで。

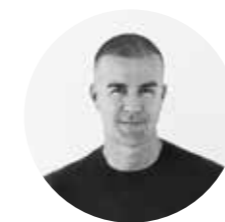
「近代建築の巨匠であるフランク・ロイド・ライトは、その当時から公平で感性を刺激するオフィス空間に関心を持ち、その未来を見通す視点が時代を超えてますます重要になってきています。」

**Stuart Graff**  
スチュアート・グラフ  
代表取締役社長兼CEO  
フランク・ロイド・ライト財団  
アメリカ

# viccarbe

ヴィッカルベ

スペインの地中海都市、バレンシアで創業。その土壌で培われた文化的多様性を企業DNAとして、世界中の名だたるデザイナーと協業しながら独特な地中海式コラボレーション家具コレクションを生み出し続けています。



**Victor Carrasco**  
ヴィクター・カラスコ  
創業者+デザイナー  
ヴィッカルベ  
スペイン

「当社の最大の使命、それは人々の暮らしを豊かにすることです。人間らしさをベースにしたアイコン的プロダクトを生み出すことで感性を刺激し、人同士の偶発的な会話を誘発できるものと確信しています。」

## Introducing Michael Held

Steelcaseグローバルデザイン担当副社長、マイケル・ヘルド/Michael Heldが語る



最近、スチールケースのグローバルデザインスタジオの統括を任されたマイケル・ヘルドは、家族と共に米ミシガン州グランドラピッズに転居。世界7カ国にある住居を拠点に世界を飛び回り、デザインの今を知り尽くす彼が語る「デザイン」とは。

**WB:** デザインに興味を持ち始めたきっかけは何だったのですか？

**MH:** 私は、街全体がまるで中世の博物館のようなドイツの小さな町で育ちました。12歳の時、両親が子供部屋として分け与えたのが地下室の小さな部屋でした。私はまずその部屋をどう使おうかと考えたのです。数年後、リビングを改装する際にどういっわけか両親が私にアイデアを求めたのです。私は夢中になって家具のスケッチを描いて大工さんに人生初の家具を作ってもらったのがきっかけかもしれません。その後、父のオフィスも設計し、両親はいまだにその家具たちと暮らしています。それと友人のために鉄を溶接して家具を製作し、母が縫ったクッションを組み合わせたこともありました。



今、マイケルが読んでいるお勧めの一冊

The Black Experience in Design: Identity, Expression & Reflection by Anne H. Berry, Kareem Collie, Penina Acayo Laker, Lesley-Ann Noel, Jennifer Rittner, Kelly Walters

Design Emergency: Building a Better Future by Alice Rawsthorn & Paola Antonelli

**WB:** デザインにまつわる複雑な課題をどうやって克服するのですか？

**MH:** 必要なのは好奇心と創造力です。性急に答えを出すのではなく、自問自答を繰り返し、クリエイティブなアイデアをどれだけ出すかということです。仕事上、日常的に創造性が求められる私はむしろラッキーです。しかし、創造力と好奇心にどれだけ長くてもユーザーである顧客の声や企業の存在意義や社会的使命といったことに結びつかなければ何の意味もないのです。

**WB:** なかなかアイデアが浮かばない場合はどうしていますか？

**MH:** 頭を一度「空っぽ」にするようにしています。他者に助けを求めるのもいいでしょう。なんといっても仕事から離れて脳をリセットするのが一番です。例えば、サイクリングやウォーキング、ハイキングや登山、何かを創作するとか何も考えずに単調な動作を繰り返すとか。別のことでうまく気持ちを逸らすことです。

**WB:** 持続可能なものづくりにどう取り組んでいますか？

**MH:** できるだけ多くのリサイクル材やリサイクル可能率の高い材料を使用しています。そのことが使用後の分解のしやすさや製品の軽量化につながっています。第二次世界大戦を経験している私の祖母は、モノを再利用しながらより少ないものでいかに生きるかを学んだと話していました。当時は私も子供でそんな話に耳も貸しませんでした。が今になって思うとその考え方はむしろ先進的です。「大量消費時代」というモノが溢れた時代に育った私たちにようやく「少ない方が豊かである」という意識が芽生えようとしているのです。

**WB:** それはご自身の自宅の設計・デザインにどう活かされていますか？

**MH:** 欧米の住居はアジアの住居にかなり影響を受けています。例えば、スペースの効率性や家具の賢い配置方法、そして、理由があってそこにあるという考え方です。

**WB:** オフィス設計において、今、あなたが目の当たりにしている最大の変化は何だと思われますか？

**MH:** 今、どこでも仕事ができるようになった結果、過去100年もの間進化しなかったオフィスの在り方や役割がようやく変わろうとしているのです。「働くこと」を長年研究し続けてきた私たちは、働き方がどう変わろうとお客様である企業が抱える問題を解決することが使命だと考えています。かつて経験もしたこともないような変革の渦の中で新たな挑戦に挑もうとしているのです。働き方やオフィスが激変する中、デザイナーとして注目しているのはむしろその「未来」です。

**WB:** ご自身のオフィスでお気に入りスポットはありますか？

**MH:** なんといっても新製品の試作品を試すプロジェクトエリアです。私たちは、まずは試作品を自ら試し、その使用感から改善点を洗い出しています。バリスタバーで美味しいコーヒーとペストリーを片手に同僚や顧客と交わす対話を通して学ぶ楽しさがそこにはあります。もうひとつは、最新テクノロジーを完備した感性を刺激するスポットといえば、本社のラーニング&イノベーションセンターのハイブリッドスペースです。

**WB:** 世界の異なる場所を行き来しながら働くことがお仕事にどんな影響を与えていますか？

**MH:** 多文化に触れることでより多角的に物事を捉えることができるようになったこと、仕事に対してもより謙虚に、そして、結論を急ぎすぎない余裕が生まれたことでしょうか。そして、相手を理解し、気持ちに寄り添い、自らの経験をベースに相手の心を開くことができるようになったかもしれません。

### 最後にひと言

私は常に、自分の専門分野や社会で活躍するクリエイティブな人々やその驚くような発想から刺激をもらっています。時に急進的すぎるアイデアややり方にこそ多くの発見や学びがあります。私は子供の頃から人の輪の中に上手く溶け込めず、人とは違うことをするのをむしろ好む性格でした。比較的早い段階からデザインの世界に足を踏み入れることができたのは幸運だったと言えるでしょう。

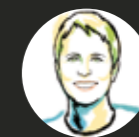
## デザイン・ボイス – 教育分野

コロナ禍の生徒・学生の学校復帰以降、学習スペースで起きた最大の変化とは？



**Katja Ninnemann**  
カーチャ・ニンネマン  
デジタル化 & ワークスペース管理  
Hochschule für Technik und  
Wirtschaft  
ベルリン、ドイツ

指導方法の変更に伴って、リアルとネット両方の学習スペースを簡単に切り替え、外部要因やスペースに邪魔されずに学習そのものに集中できるようになった。設計デザイナーは、まずは指導と学習のハイブリッドプロセスの課題を理解し、教師や生徒・学生と共にスペースを段階的に再考する必要がある。



**Gretchen L. Holy**  
グレッチェン・L・ホーリー  
プリンシパル、高等教育インテリアデザインリーダー  
DLR Group、米カンザス州

コロナ禍の学生のメンタルケアが問題視された。今後の課題は学業への意欲や学生のウェルビーイングの向上、成績だけではなく社会面、心理面でのニーズを満たすことに注力することである。



**Richard Leonard**  
リチャード・レナード  
アーキテクト兼ディレクター、  
Hayball社  
メルボルン、オーストラリア

教育現場でのオンライン学習は一夜にして不可欠かつ日常のシーンへと変化した。加速する教育のデジタル化によって、新たなテクノロジーや日常化したビデオ通話をスムーズに活用できる教室づくりがますます重要になってきた。

# Designing *With*, Not *For*

## 誰もが参加するオフィスデザイン

インクルーシブオフィス実現に向けての重要ポイントは平等ではなく「公平性」。



2006年、世界中の障害者が参加して作成された障害者権利条約が国連で採択されました。その時のスローガンが「Nothing about us, without us(私たちのことを私たち抜きで勝手に決めないで)」。この考え方は1990年代初頭の南アフリカの障害者権利運動が始まりだとも言われ、決定に影響を受けるメンバーの参加なしにどのような事項も代表者によって決定が下されるべきではないという主張です。

「インクルーシブデザインとは、今までは置き去りにされてきた多様な人々をそのデザインプロセスに巻き込む手法です。その手法に精通した団体と提携し実践すればするほど、深い学びがあり、情報共有することの重要性を日々感じています。」と語るのはスチールケースインクルーシブデザインチームを率いるカマラ・サドベリーです。

当社は、よりインクルーシブなオフィス構築に向けて、世界的な専門機関や団体と提携、協業し、継続的な学習機会を設けることでその学びを加速させています(右記パートナーコミュニティを参照)。

アンケート調査、インタビュー、円卓会議、ワークショップを通してよりインクルーシブなオフィス構築に向けての情報を集積。そのベースにあるのは信頼と尊重、そして、共感です。

### 平等より公平

世界人口が80億人に達成しようという中、オフィスの設計や風景は過去何十年もの間変化していません。デスクとチェアがずらりと並んだオフィスはまさに誰もが等しい「平等」をベースに設計されてきました。しかし、それは全員が同じ場所で同じ時間に同じ働き方をすることが前提で、より多くの選択肢と自律性が求められるハイブリッドな働き方には機能しないことは明らかです。

今後の課題は、「平等」から「公平」を主軸に置いたよりインクルーシブなデザイン手法でオフィスを設計すること。今までのように全員に一律に「平等」な環境ではなく、多様な背景や嗜好、スキルを持つ個々のニーズに応じて選択できる環境を提供し、相対的に同じ効果が得られる「公平性」にシフトすることです。

### インクルーシブデザインのプロセス

インクルーシブデザインとは結果ではなくデザインプロセスを指します。招待されたメンバーはそのデザインプロセスの初期段階から発言権を持って積極的にそのプロセスに参加し、上手くいけば組織文化や業務プロセス、オフィススペースをも巻き込んだ変革を起こすこともできます。

「インクルーシブデザインは、まずは排除を認識することから始まります。」と主張するのは「Mismatch: How Inclusion Shapes Design」の著者、キャット・ホルムズです。今まで取り残されてきた人々を特定すること。それが次のステップにつながります。職場での弱き人々の声を聞き、障壁を特定し、誰ひとり取り残さない一体感あるコミュニティを構築することです。

排除は、身体的、心理的、文化的側面のさまざまな障壁の結果として生じるものです。多くの場合、個々の人生経験を通して確立されたアイデンティティや世界観、偏見によって起こる差別や抑圧などさまざまです。声が届かない人々と共にスペースを再考することで排除をなくし、そのことが社内イノベーションの創出にもつながります。

「今、時代は画一的なワンパターンから個々人にあった多様な設計アプローチへとシフトしています。その鍵は選択肢と自律性。誰もが最高の気分で最高の仕事をこなせる場所と方法を提供することです。」

### 提携団体・機関

**G3ict** インクルーシブ情報通信技術のためのグローバルな取り組み。 <https://g3ict.org>

**IAAP** 国際アクセシビリティ専門家協会。  
[www.accessibilityassociation.org](http://www.accessibilityassociation.org)

**Special Olympics Michigan Sports** 米ミシガン知的障害者のためのスポーツトレーニングと運動競技。  
[www.somi.org](http://www.somi.org)

**SPORK!** 障害者コミュニティの声を発信。  
[sporkability.com](http://sporkability.com)

**Valuable 500 Global** 障害者のためのインクルージョンを推進。 [www.thevaluable500.com](http://www.thevaluable500.com)

**World Enabled** インクルージョンとダイバーシティに関する法的義務の実施をサポート。  
<https://worldenabled.org/>

# New + Notable

Design with intention  
that *inspires*

新着 + 注目アイテム  
想像を掻き立てるデザイン

スチールケースとそのブランドコミュニティの最新プロダクトラインナップをご覧ください。



最新テクノロジーを駆使したハイブリッドワークの浸透。それが仕事パターンやオフィス環境両方の変化を加速させる重要な推進力になっています。

Air<sup>3</sup> アコースティックポッドは、必要な場所に最適なプライベートスポットを配置できるよう設計されています。





「製品の開発設計の段階から明確だったのは、  
いかにエレガントかつシンプルなシステムを設計するかということでした。  
また、ファッション業界に長かった私は、視覚的ひねりを重視し、  
外側の背面パネルを左右対称のシンメトリー配置で  
魅力的に仕上げました。」

**Angela Gidden**  
アンジェラ・ギデン  
Cwtch担当デザイナー

## Places for Privacy

多種多様なパーソナルな「場」  
ビデオ通話やウェブ会議が日常化するにつれ、オフィスでの集中ブースと  
してのパーソナルスポットが必要不可欠な「場」として注目されています。



**Away from the Desk by Orangebox**  
独自のハイバック設計は、洗練された方法で音響、視覚両面でのプライバシー  
を提供。ソファの快適さと人間工学を配慮したタスクチェアの直立姿勢を合体  
し、リラックスしたコラボレーション環境でのハードなPC作業をサポートします。



**On the QT by Orangebox**  
プライバシーが必要な場所に容易に  
設置できる自立型フックブース。



**Air³ Pod by Orangebox**  
自動ルーバーと火災安全装置完備で市場  
で最も先進的なポッドとして認知されています。



# Seating With Style

## 個性を放つチェアの数々

快適な座り心地と個性が光るシンプルかつモダンな佇まいがオフィスのソーシャルエリアやミーティングスペース、ロビーを彩ります。

Marteen Chair  
by Viccarbe



Mono Chair  
by Wendelbo



Mango Chair  
by Wendelbo



Transit by m.a.d



Dragonfly  
by Segis



segis

### Camel by Segis

ラクダのこぶから着想を得たシェル形状が特長的。一切の余計なモノがなく、個性が快適さそのものです。

「Camel(キャメル)チェアは、ラクダのこぶにインスパイアされてデザインされました。繊細で柔らかなフォルムと座り心地の良さが特長のチェアコレクションは、さまざまな環境にフィットします。」



Bartoli Design,  
Segis Camel コレクション担当デザイナー



「名前が示すように、  
昆虫のトンボ(Dragonfly)の  
観察から閃いたデザインです。  
トンボの前肢と長く伸びた腹からなる  
不均衡な構造をチェア脚と  
カンチレバーシートで表現し、  
車のラジエーターにも似た  
背もたれリブはチェアの強度を  
高めながら個性を添えています。」

Dragonfly by Segis



**Odo Fioravanti**  
オド・フィオラバンティ  
Segis Italyとのコラボ



# Better Hybrid Collaboration

ハイブリッドコラボレーションを成功させる

リアルとリモートのハイブリッド会議が定着しつつある中で、未だ世界の9,000万の会議室のうち、ビデオ対応型スペースはわずか10%未満です\*。最新テクノロジーが導入されているにもかかわらず、多くの場合、「スペースが狭い」、「不快感がある」、「周囲が騒がしい」、「視覚的に注意散漫になる」、「予約が困難」などスペース自体への不満を訴える人も多いことが調査から判明しています\*\*。

ハイブリッドコラボレーションを阻む最大の要因は、社内にいるメンバーとリモートメンバーの間にある物理的環境の格差です。成功させるには接続環境や画面共有以上の条件が要求されます。つまり、映像や音響、照明、コンテンツなどのすべての重要要素を調整、演出し、ウェブ会議全体を包括的に設計することです。この理想的な環境構築にあたっては「公平性」、「自発的貢献」、「使いやすさ」の3項目を念頭にすることが重要です。

これまでないハイブリッドスペースの設計と開発、そして、試験的運用を成功させるには、まずは設計、施設、ITの各部署の緊密な連携と誰もが能力を最大限に発揮できるようにテクノロジーを強化することが不可欠です。テクノロジーと家具が完全に融合したハイブリッドスペースの提案—マイクロソフトとスチールケースが会議室の再構築で協業したのはまさにこれが最大の目的でした。

まず、一般的な長方形の会議室のレイアウトを再考し、参加者全員が従来の長方形の短い壁面ではなく、長い壁面に面するように設計したことです。Microsoft Teams Room Front Row用に開発されたテーブル、Ocular™ (オキュラー)は、フォルムをカーブ状にすることでコンテンツ、チャット、その他の会議要素を共有しながら誰もが室内の全員の顔や声を認識でき、リモート参加者とも同じ目線で会話ができるようになります。さらにオーバーヘッド照明にすることで均等に拡散された柔らかな光が映りの悪さを解消します。また、ズームの自動調整やワンタッチ参加機能があるロジテック(日本はロジクール)のテクノロジーがシームレスなウェブ会議体験をさらに向上させます。

\* 2021年3月Frost & Sullivan「世界のビデオ会議デバイス市場の実態と2025年までの予測」

\*\* 2022年度Steelcaseグローバルレポート

## ハイブリッドコラボレーションの目標

### 公平性

リアルとリモート両方の環境格差をなくし、公平な環境を構築する。

### 自発的貢献

誰もが仕事に貢献できるスペースを設計する。

### 使いやすさ

多様な活動と働き方の間のシームレスなフローを確立する。



### Tap Controller by Logitech(Logicool)

ロジクールの「タップコントローラー」。ワンタッチ参加、カレンダーへの統合、容易なコンテンツ共有などの最新機能がビデオ会議をよりシンプルかつスムーズに。



### Rally Bar Mini by Logitech(Logicool)

優れた光学と音響を提供するロジクールのオールインワンのビデオバーは、一体型ビデオ会議体験を実現します。

### Ocular by Steelcase + Microsoft

スチールケース+マイクロソフトのコラボで生まれたカーブ状テーブル「オキュラー」。曲線型フォルムによって誰もが全員の顔や声を認識でき、同じ目線で会話ができるようになります。



### Air³ by Orangebox

吸音・遮音機能で最高クラスの音響環境とテクノロジー装備で極上のプライバシー空間を提供します。

# Power Where and When You Need It

いつでも、どこでもカンタン充電

柔軟で多様な動き方に応じていつでも簡単に充電、どこでもストレスなく仕事を続行できます。



**Under Worksurface Utility Power** by Steelcase

テーブル/デスクの天板下に設置する配線トレイ。埋め込み式電源タップにより、天板上で複数のデバイスに充電が可能です。



## Steelcase Flex Mobile Power

わずか1.3キロという軽量さと陶器のような美しさが魅力のポータブル電源。さっと手に取って持ち運べるチームの最強アシストアイテムです。





## Spaces for Learning

### 教育のための「場」

調査によると、学生の79%が学習者のより主体的かつ深い学びを促す「アクティブラーニング」用に設計された教室のメリットを高く評価しています。スミスシステムが生み出す家具は教師や学生・生徒が自在にスペースを再構成できるように設計されています。

### Smith System®

学習環境構築のために設立されたスミス・システムは、「学ぶ」、「教える」を刺激するための「場」づくりを目指しています。



Flowform Learn Lounge Table

Flowform Square Ottoman



Flowform Learn Lounge Screen



Flowform Learn Lounge Single Seat



Flowform Hexagon Ottoman



Flowform Learn Lounge Double Seat



Accord Mixed-Media Collaborative Board  
by Polyvision

# Shape Shifters

## 視点を変える

ハイブリッドワークは従来の常識を覆す。

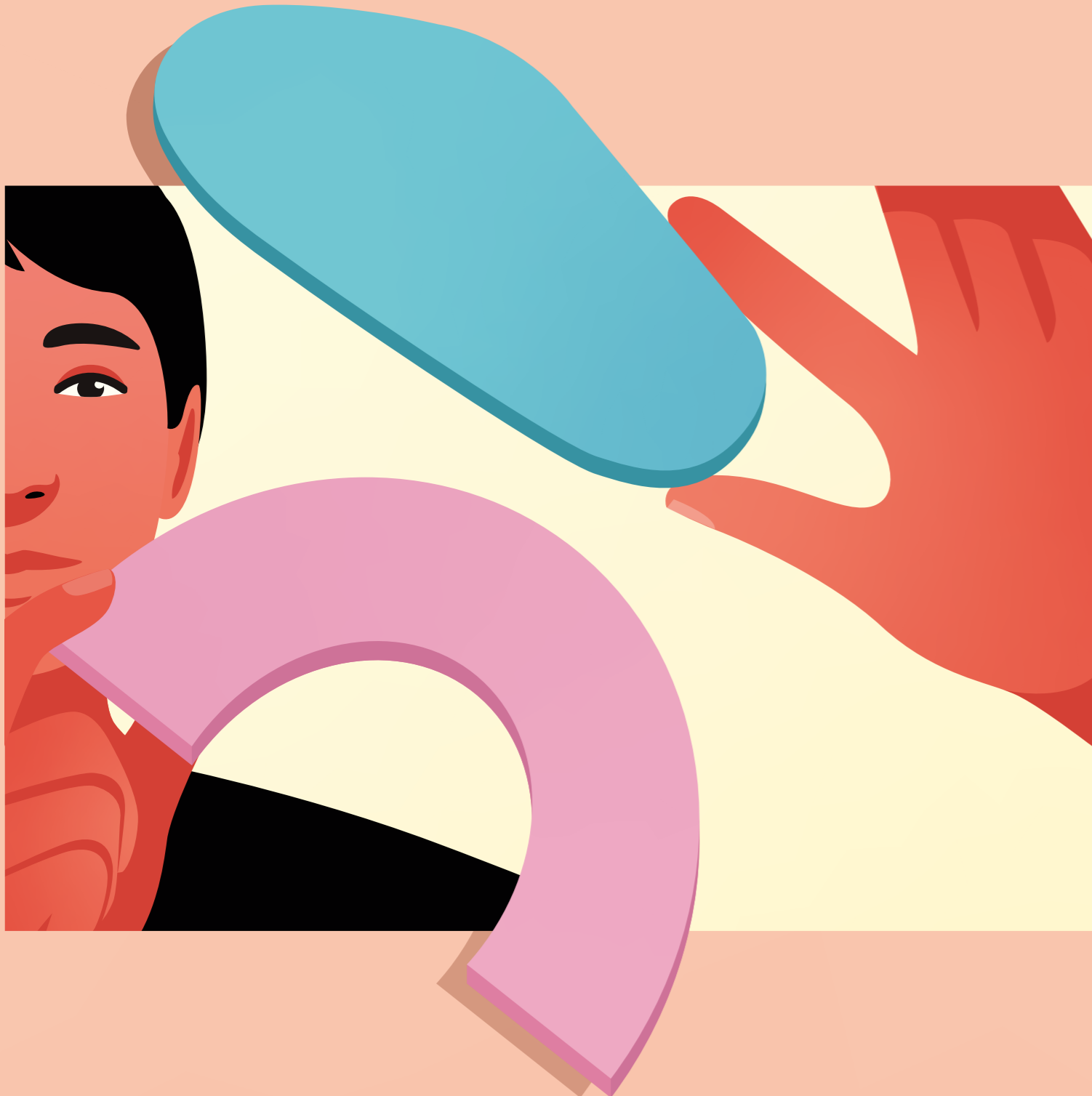


Illustration by Anna Parini

典型的な会議室を想像してみよう。中央の一台の長い長方形のテーブルを囲んで全員が正面のディスプレイやホワイトボードがある方向を向いて座っている風景です。画面を見るために身を乗り出したり、隣の同僚の後頭部が気になったり。声が聞き取りにくいことも。

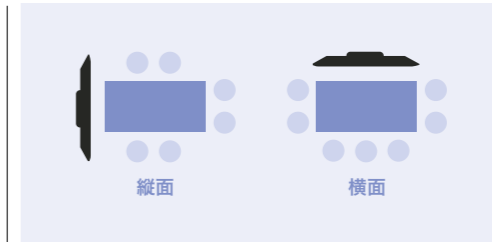
会議の半分以上がリアルとリモート両方のハイブリッドになりつつある昨今、オフィスの設計デザイナーに求められること、それは従来の古い思考方法を捨ててハイブリッド時代の新たな手法に取り組むことです。例えば、部屋にいる人だけでなく、ハイブリッドに適した家具、カメラなどのツールからその配置までも慎重に設計することです。

スチールケースのグローバルデザインのプリンシパルであるメアリー・エレヌ・ロッシュはこう述べています。「部屋にいる全員がリモート参加者と目を合わせながら話せて画面コンテンツを情報共有できること。それと同時に、部屋にいる全員を視認しながら活発にコラボレーションできることが極めて重要になります。」

オフィスを求める最大の理由は「コラボレーション」です。しかし、当社がグローバルに実施した最新実態調査によると、多くの人がハイブリッドに向けたコラボレーションスペースの欠如に不満を抱いています。「ハイブリッド・コラボレーション」を成功させるには、照明、カメラ、音声、コンテンツの配置等を映画監督のように捉えることがポイントです。目を合わせながらの自然なコミュニケーションをするにはカメラをどこに配置し、スピーカーやマイクは何台必要か、配線コードをすっきりと収納するにはどうすればいいかなど従来にない視点からスペースを再考することが求められます。

設計デザインにあたっては、ITパートナーであるマイクロソフト、ズーム、ロジテック（日本はロジクール）、クレストロンに協力を仰ぎ、円滑なコミュニケーションと誰にも公平で使いやすいスペースづくりを目指しました。真に機能するハイブリッドオフィスには、こうした綿密な計画性と実施設計をベースにした最新テクノロジーとスペースの完全なる融合が不可欠です。

カメラのアングル、デバイスや家具の配置を共同で設定し、ハイブリッドコラボレーションを成功させるための画期的な手法を導き出しました。



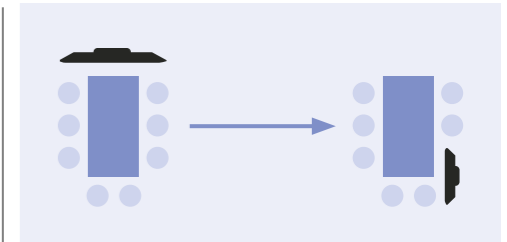
### 縦から横へ

ハイブリッドミーティングには、従来とは異なる視点でスペースを設計することが鍵になります。リアルの人数が少ない場合、部屋を縦(短い方の壁を向く)ではなく、横(長い方の壁を向く)に使うこと。それによって両端の人も含め部屋の全員を無理なく映像に収めることができるため、リモート参加者は全員の表情や仕草から細かな反応を読み取ることができます。



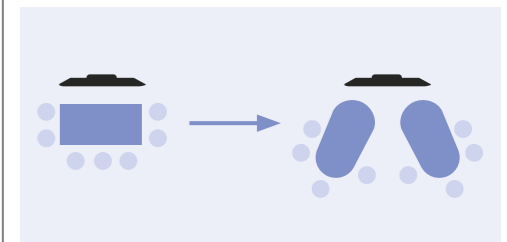
### 直線から曲線へ

四角い家具や直線的なレイアウト配置から、扇型形状など曲線を生かした家具を利用することで、リアルとリモート参加者全員が目線を合わせながら対話ができ、公平かつ親しみがある印象を与えます。最上のウェブ体験には使用するテーブル形状が今後は極めて重要な要素になります。



### 「人間らしさ」主体のハイブリッド

「私たちがより多くの時間を費やしたのは、リモート参加者の顔を常に画面に並列に表示するというよりも、どうやったら皆がより積極的に対話することができるかということでした。」とロッシュは語っています。設計チームは、リモート参加者の環境を調べ上げ、いかに対面に近いコラボレーション体験を実現させるかを探りました。その際のポイントはより高度な柔軟性と視界の改善でより自然なコミュニケーションを実現することでした。複数のモニター、モバイルデバイス、ソフトとハードの最新機能によって、人とコンテンツを画面分割にし、顔表示用カメラが目線を合わせながらのより自然な対話を可能にしました。



### 単一選択から多肢選択へ

多彩なスペースやテクノロジー、多用途な家具やモニターなど。ハイブリッドコラボレーション成功のカギはその豊富な選択肢をいかに組み合わせるかです。さらにスペースの利用方法、サイズ、利用可能なソフトとハードの機能など、さまざまな要素を考慮する必要があります。また、チーム専用スペースでは可動性家具がより威力を発揮し、共有スペースではデバイスのテストやトラブルシューティングに費やす時間がほとんどないため、固定レイアウトの方が成功する確率が高くなります。

Inspiration

「車のラグジュアリーにも似た  
リブ付き背もたれの  
ダイナミックなデザインは、  
背もたれの強度を高め、  
チェアに個性を加えています。」

**Odo Fioravanti**  
オド・フィオラバンティ  
デザイナー  
Segis Italyとのコラボ

# Work Better **WB** Magazine. Podcast. Online.

働き方やその改善方法のヒントになるポッドキャスト

S1:E1  
**A New Vision for the Workplace** with Chris Congdon  
クリス・コンドンが語るオフィスの新たなカタチ

S1:E2  
**Neuroscience of Community** with David Rock  
デビッド・ロックが語る「脳科学的観点からのコミュニティ」

S1:E3  
**Groupiness at Work** with Annie Murphy Paul  
アニー・マーフィー・ポールが語る「職場での集団的特性」

S1:E4  
**Loneliness, Linger + Libraries** with Eric Klinenberg  
エリック・クリネンバーグが語る「社会的孤立、居場所 + 図書館」

S1:E5  
**Be More Human in the AI Age** with Kevin Roose  
ケビン・ルースが語る「AI時代には人間はより人間らしく」

S1:E6  
**Innovation as a Recipe for Engaging Talent** with Simone Ahuja  
シモーネ・アブジャが語る「才能を引きつけるレシピとしてのイノベーション」

S1:E7  
**RTO Is Like Returning From Deployment** with Lt. Col. Adria Horn  
アドリア・ホーン元中佐が語る「オフィス復帰とは部隊から帰還するようなもの」

S1:E8  
**Change Community and Your Company** with Kenny Clewett  
ケニー・クルーエットが語る「地域社会と会社を変える」



Listen. Learn. Subscribe.

当社サイト ([steelcase.com/podcasts](https://steelcase.com/podcasts))、  
またはポッドキャストアプリでご視聴いただけます。



Stay Tuned



Work Better Online

欧米デザインの動向やヒント、  
知見など最新情報を  
いち早くお届けします。

[steelcase.com/research](https://steelcase.com/research)

Steelcase とつながろう



[instagram.com/steelcase](https://instagram.com/steelcase)

[pinterest.com/steelcase](https://pinterest.com/steelcase)

[facebook.com/steelcase](https://facebook.com/steelcase)

[twitter.com/steelcase](https://twitter.com/steelcase)

[linkedin.com/company/steelcase](https://linkedin.com/company/steelcase)